

## 6. まとめ

「プラズマ CVM による精密加工技術の研究」を平成6年3月より5年間に亘り推進してきた。この報告書（研究編）でご覧いただけるように、実行面では大阪大学 大学院工学研究科のご指導に負うところ大であったが、通産省工業技術院大阪工業技術研究所を中心とし、兵庫県立工業技術センター、当事業団兵庫研究室、(財)大阪科学技術センター主催の「プラズマ CVM 応用研究会」参加企業の研究者の方々のご努力により基礎的研究から実用化に向けての一步を踏み出すことができたものと思われる。

本事業発足当時の日本は、ブラザ合意後の景気後退、製造業の国内設備投資減少という社会的背景を受け、抽象的ながら“地域における新技術、新産業創出”が叫ばれだした時であった。また、発足翌年の平成7年1月には阪神大震災を間近で経験したものの、幸い大過なく共同研究を推進することができた。科学技術施策という観点では、平成7年12月に「地域における科学技術活動の活性化に関する基本方針」が内閣総理大臣決定、翌平成8年7月には「科学技術基本計画」が閣議決定され、“科学技術立国”を再確認したのは記憶に新しいところである。つまり兵庫における本共同研究は、地域における研究開発、科学技術行政のあり方を考え、模索しつつ推進してきた課題であったといえ、ここに5年間の共同研究推進期間の終了を迎えたものである。今日の信用収縮という社会・経済環境においては、研究者の交流による研究の活性化にとどまらず、更に一步進んだ施策が求められ、新技術・新産業の創出に向けた新たな事業へと展開を図ることとなり、平成9年度より地域結集型共同研究事業を開始した。

本事業の目的である独創的研究の推進という観点では、(財)大阪科学技術センターにおいて新たに開始される「超先端科学研究会」を通して更なる技術の展開と併せて技術の普及を図り、また兵庫県においては地域研究開発拠点支援事業（RSP 事業）を展開する(財)新産業創造研究機構が兵庫県立工業技術センターと行う「プラズマ CVM 研究会」を通して地場企業への技術普及活動として継承されていくことになっている。

最後に、関係者各位におかれては、今回の共同研究の推進に対して多大なるご協力を賜りましたことに対し謝意を表すと共に、研究の成果が我が国の科学技術の発展に寄与する事を祈念して本報告書のまとめとする。

平成11年3月